



遠大勵志

桜開花宣言

まだまだ寒い北上ですが、13日(金)の早朝に、第一体育館の脇にほんの少し、愛らしい桜の花が、頑張って咲いていることに気づきましたので、職員朝会において、先生方に対して、「黒陵の開花宣言」を行いました。本校では例年行っている行事と聞いておりましたが、素晴らしい伝統だと思います。



本校のように、校地内を数匹のリスが駆け巡り、187本のたくさんの桜の樹がある素晴らしい環境の中で、学習と部活動に打ち込んでいる生徒たちは、本当にうらやましい限りです。黒陵に咲き誇る満開の桜を想像するだけで、その美しさが容易に想像でき、今から待ち遠しく楽しみに思っています。

前校長からの引き継ぎの際に、女子生徒の校章が学年によって色が異なっていることを伺いました。1年生はピンク色、2年生は緑色、3年生は赤色とのこと。この色は、期待に満ちて入学し、葉をどんどん伸ばし成長し、卒業時には充実結実し、新たな環境に歩みを進めるという意味合いが込められていると話されていました。

生徒の成長を桜の成長に重ねて、校章の色を変える発想にも感激しました。満開になると、昼休みに生徒たちは連れだって、桜の下でお弁当を広げることも聞きました。その様子を見るのが楽しみでなりません。

あれをみよ

深山の桜咲きにけり

真心尽くせ

人知らずとも

もう既にこの一首を知っている人もたくさんいるだろうと思うのですが、この一首に私が出会ったのは、10年ほど前。偶然にある本を手にとった時でした。目にした瞬間、深い山奥に中でたった一本の桜の木が、誰に見られることもなく満開に咲き誇っている様子が見えるようでした。

思わず背筋が伸びました。

もちろん、誰でもこの一首の意味は理解できるのだろうと思いますが、念のために、お話します。

「あれをみてごらん！深い深いだれも足を踏み入れることのない山奥で、人知れず咲き誇っている桜がある。誰に見られることもないけれども、満開に美しく咲いている。桜は誰かに見られたくて咲いているのだろうか。美しいと言われたくて咲いているのだろうか。どちらも違う。誰に見られなくとも、誰に褒められなくとも、静かにひっそりと咲いているのだ。あなた自身はどうですか？」

痛烈に私の心に響きました。

人に褒められたくて何かをしようと思ったり、誰も見ていなければ何かしようとする思いこともない。そんな自分の姿に「喝」を入れられたように感じました。損得で行動することが多いこの世の中で、考えさせられる一首です。

そのときから、この一首は私の「座右の銘」としています。桜の季節になると、より自分の生き方を考えさせられます。みなさんは如何ですか？